

文献番号	年	書名	著者	慢性肝炎の予後
5-9-13	1997 (H9)	『新臨床内科学 第 7 版』医学書院	信州大学清澤研 道教授	C型肝炎は慢性化率が高い。 いったん慢性化すると自然経過で治癒することはない。初感染から平均 20 年で肝硬変、平均 30 年で肝細胞癌へ進展する。
5-9-14	1997 (H9)	『新臨床内科学 第 7 版』医学書院	信州大学古田精 一教授	慢性肝炎は数年ないし 20～30 年と長期にわたる経過をとる。 非 B 型慢性肝炎の約 95%は C 型肝炎である。bridging necrosis を伴う慢性肝炎は、高率かつ早期に肝硬変へと進展する。(非 B 型肝炎の肝硬変への進展率は、慢性非活動性肝炎 14%、慢性活動性肝炎 28.8%、bridging necrosis を伴う慢性肝炎 41.7%)
5-9-15	2002 (H14)	『新臨床内科学 第 8 版』医学書院	信州大学清澤研 道教授	C型肝炎は慢性化率が高い。 いったん慢性化すると自然経過で治癒することはまれである。初感染から平均 20 年で肝硬変、平均 30 年で肝細胞癌へ進展する。
5-9-16	2002 (H14)	『新臨床内科学 第 8 版』医学書院	虎ノ門病院熊田 博光	C型肝炎について、慢性肝炎から肝硬変への進展率は、F1 で約 7%、F2 では約 15%、F3 では約 50%が肝硬変へ進展する。また肝硬変から肝臓への進展は、年率 5%～7%で肝臓へ進展する。
5-9-17	2008 (H20)	『内科学第 9 版』 朝倉書店	千葉大学横須賀 進	急性の 70%が慢性化し 20-30 年で肝硬変、30-40 年で肝臓が認められる例が多い。